

校内研修用指導案（技術・家庭科） 令和4年12月15日（木）6時間目

1. 単元構成・計画

教科名	技術・家庭科	学年	3年	時期	12月	
単元名	3編私たちの成長と家族・地域 2章幼児の生活と家族 ⑤幼児の生活と遊びを知ろう					
目 標	知識及び技能	幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。				
	知識及び技能	幼児は遊びの種類やその内容により促される発達が異なることを理解すること。				
	思考力、判断力、表現力等	幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現すること。				
	思考力、判断力、表現力等	幼児の発達と遊びを関連付けて考え、特定の発達を促すために必要な遊びの種類や方法を説明や実演で表現すること。				
	学びに向かう力、人間性等	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようすること。				
評 価	評価の観点	評価規準		評価材料		
	知識・技能	幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。		●授業での様子 ○ワークシート ●ノート記述 ○実技 ○●授業内C B T		
	知識・技能	幼児は遊びの種類やその内容により促される発達が異なることを理解している。				
	思考・判断・表現	幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現することができる。				
	思考・判断・表現	幼児の発達と遊びを関連付けて考え、特定の発達を促すために必要な遊びの種類や方法を説明や実演で表現することができる。		●授業での様子 ○ワークシート ●ノート記述		
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。				
指導計画				評価計画		
時数	指導内容			知	思	主
1	成長を振り返ろう 自分の成長の軌跡を振り返り、発達期について知る				●	○
2	幼い頃を振り返ろう 自身の幼児期を想起し、思い出等で振り返る					○
3	幼児の身体の発達について考えよう 幼児の身体的特徴について知る			○	●	
4	幼児の心の発達について考えよう 幼児の心身の発達過程について知る			○	●	
5	幼児の生活習慣の習得について考えよう 生活習慣の定着について知る			○	○	●
6	幼児の生活と遊びを知ろう① 遊びと生活の関係性について知る			○	○	●
7(本)	幼児の生活と遊びを知ろう② 遊びと発達の関係性について知る			●	●○	●
8	幼児との関わり方を考えよう 幼児と適切に接する（遊ぶ）方法を知る				○	○

※○主に評定に用いる評価 ●主に学習改善につなげる評価

2. 本単元におけるC B TおよびGoogle フォームの活用場面について

1	前時までの実技（裁縫）に関するC B Tを授業の導入で実施する
2	授業の終末で体験的な学習から得た経験を基に思考するフォームを実施する

3. 本時案

(1) 本時の目標		
知識・技能	遊びによって発達する力を理解し、それと折り紙を関連付け、遊ぶことができる	
思考・判断・表現	体験した遊びがなぜ発達に関係するのかをCBTにより表現することができる。	
主体的に学習に取り組む態度	試行錯誤しながら遊びを工夫し、取り組もうとする。	
(2) 学習の展開		
学習活動	教師の働きかけ	指導上の留意点 ●・○評価の方法
1. あいさつ 2. 前時（裁縫）のCBT 3. 遊びで発達する力 4. 遊びの種類とおもちゃ	1. 2. 生徒の解答の把握 3. スライドを用いて知識を習得させる	●誤答への補足 ●ノートへの記述
本時の課題：遊びから発達する力を見つける		
5. 実際に折り紙で遊んでみる 6. どのような遊びをしたのか交流する	4. 自由に折り紙で遊ばせる 5. 周りと交流してみる	●観察 ●周囲との交流
7. 本時のCBT 8. 次時の予告	6. CBTによる体験から知識への移行	●○授業内CBT
(3) 主に学習改善につなげる評価と改善の手だて		
知識・技能	C (手だて)	体験している遊びについて、どのようにして遊んでいるのか、それはどれに当てはまるのか、何が発達するのかを個別に問いかける
(4) 主に評定に用いる評価と改善の手だて		
知識・技能 思考・判断・表現	A	幼児の発達と遊びを関連付けて考え、それを踏まえて本時の体験がどのような役割を果たしているのかを記述により詳細に表現（説明）することができる。
	B	幼児の発達と遊びを関連付けて考え、特定の発達を促すために必要な遊びの種類や方法を説明することができる。
	C (手だて)	CBTの解答内容から個別に本時の復習や体験した内容を想起させ、知識や技能を補い、改めて表現できる場を設定する。